

輸入検疫で発見された主な病虫害

昭和57年に輸入検査申請のあった植物類は、69万1千件で、このうち病虫害付着のために消毒措置がとられたものは14万7千件、廃棄処分がとられたものは9千件であった。

輸入禁止植物等(輸入禁止品)は、年間5万4千件発見され、全量廃棄処分となった。これらは主に旅行客の携帯品として持ち込まれたもので、果物類が一番多く全体の82.3%を占めた。これら輸入禁止植物等からは我が国が最も侵入を警戒しているチチュウカイミバエ(3件)、ウリミバエ(3件)、ミカンコミバエ(164件)、アリモドキゾウムシ(2件)が発見された。また、輸入検疫において、この他に発見された我が国未記録の病虫害で主なものをあげると別表のとおりである。

発見病虫害	寄主植物別発見回数	輸出国別発見回数
〈害虫〉		
<i>Blissus leucopterus</i> Say (アメリカコバネナガカメムシ)	アロエ穂木(1)	アメリカ合衆国(1)
<i>Dendroctonus Ponderosae</i> Hopkins (アメリカマツノキツイムシ)	ホワイトバイン(1) <i>Pinus</i> sp. (1)	アメリカ合衆国(1)
<i>Anastrepha fraterculus</i> Wiedemann (ミナミアメリカミバエ)	パンシロウ生果実(1) コーヒー // (1)	ブラジル(2)
<i>Dacus latifrons</i> Hendel	ピーマン // (1) トウガラシ // (4)	タイ (2) マレーシア(2) シンガポール(3) インドネシア(3) ホンコン(2) 台湾 (3) フィリピン(1) 不明 (1)
〈病菌〉		
<i>Colletotrichum capsici</i> (Sydow)	トウガラシ生果実(3) トウガラシ種子 (4) トウガラシ乾果 (1)	韓国(1) 台湾(9) タイ(8) 香港(1) マレーシア(4) 不明(1) インドネシア(3) アメリカ合衆国(3) フランス(1) インド(2)

海外のニュース

アメリカにおける Corn Cyst Nematode の発生について

Corn Cyst Nematode (*Heterodera zeae* Koshy, Swarup & Sethi, 1971) は、インドでトウモロコシに寄生する新種のシストセンチュウとして記載された。インドでは、5州のトウモロコシ畑で広範囲に分布しており、重要な線虫である。本種は、その後1978年にエジプト、1981年にパキスタンで発見され、同年には、アメリカ合衆国のメリーランド州ケント郡のトウモロコシ畑からも発見された。以下、The American Phytopathological Society の報告により発生の経過を紹介する。

1981年1月、メリーランド州ケント郡で土壤検診を行った畑の内、トウモロコシ畑(約60ha)からシストセンチュウの幼虫が発見された。同年2月20日、再度シストセンチュウの幼虫が発見された畑のトウモロコシ根回り部を土壤検診した結果、土壌250ml当たり100個ないし200個の白色から淡黄褐色をした雌虫が検出された。同定の結果、インドに発生している本種と同じ種であった。

本種は、インドではトウモロコシの多数の品種が好適な寄主植物である。また、アメリカでの予備試験によると、今回メリーランド州で発見されたシストセンチュウは、トウモロコシの他にオオムギに寄生するが、コムギ、エンバク、ライムギ及びソバには寄生しない。

アメリカでは、本種が主要な農作物であるトウモロコシ及びオオムギを寄主植物とするため、その発生動向をかなり警戒している。しかしながら本種の病原性、抵抗性品種、薬剤防除法及び寄主植物の範囲などについては、まだ十分に解明されておらず現在研究が進められており、今後の成り行きが注目される。(害虫課 平田賢司)

※ Plant Disease Vol. 65 NO. 7 (1981)

発行所 横浜植物防疫所
〒231 横浜市中区北仲通5-57横浜農林水産合同庁舎 ☎045(211)2299
発行人 江口 照雄
編集責任者 松延 正弘
印刷所 内村印刷株式会社
〒231 横浜市中区末吉町1-12 ☎045(261)7961